

## 漫画・アニメキャラクターにみる 「さつまいも文化」継承の一考察

さつまいも伝道師

いもりん  
(みやおか まゆ)

### はじめに

さつまいもは、江戸時代の救荒作物から戦中・戦後の代用食・燃料原料、昭和の副食、現代の健康志向の象徴へとその役割を、時代と共に変容させてきている。近年は、食生活で不足しがちなビタミンや食物繊維を豊富に含み、栄養に優れた食材として再評価されている。また市場では「べにはるか」や「シルクスweet」等、甘くねっとり・しっとりとした品種が話題であり、筆者が2024年に訪れた『“日本の食品”輸出EXPO』では、さつまいも商品が展示され、国際的な需要の広がりを感じた。

「日本のさつまいも文化」は、時代背景・人の記憶と共に多様な味わいの中で息づいている。「味わい」とは食べるだけでなく、読む・見る・聞く・触る等の体験が含まれる。本稿ではそれを「味わイモな体験」と名付け、漫画・アニメに登場するさつまいもの描写に注目したい。『ドラえもん』 1) 『サザエさん』 2) 『鬼滅の刃』 3) の3作品を通じて、日本のさつまいも文化継承における作品とキャラクターの役割を考察する。

#### 1) 『ドラえもん』

藤子・F・不二雄原作。1970年より児童向け雑誌で漫画連載開始、1979年からアニメ化。

#### 2) 『サザエさん』

長谷川町子原作。1946年に新聞で4コマ漫画の連載開始、1969年からアニメ化。

#### 3) 『鬼滅の刃』

吾峠呼世晴原作。2016年より漫画連載。2019年にアニメ化。

### 1. 漫画・アニメが描くキャラクターと食文化

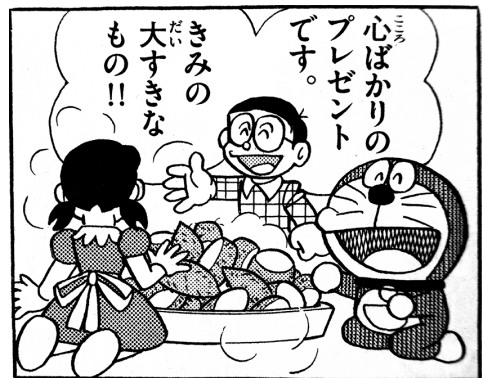
文化とは、人間が自然と社会の中で育んできた、生活様式・信念・技術・芸術・食習慣の総体である。石毛直道は「人間の行動の深層には行動を支える価値観がある。価値観は個人の育った集団、すなわち文化的環境のなかで形成される。食に関する価値観のちがいが、それぞれの文化において（中略）嗜好や美味の概念などに反映している。」（石毛・鄭，1995）と述べた。これに基づく食文化は、人間の行動や思想の体系であり、漫画やアニメの物語もその形成の一部として機能し得るのではないか。本稿でいう「漫画」とは、絵と文字で物語を伝え、「アニメ」は映像・音声・音楽を通じて物語を伝える視覚表現である。キャラクターは、時代や倫理観、価値観等を映す一翼を担いながら、読者や視聴者に郷愁や共有の記憶を呼び起こし、人々が感情移

入し得る存在となる。本稿では、漫画・アニメを国内外で親しまれている日本の文化要素の一つと位置づけ、作品に登場するさつまいもに注目する。

## 2. 『ドラえもん』 秘密のおやつ

藤子・F・不二雄の『ドラえもん』は、22世紀から来たネコ型ロボットが、登場キャラクターの問題を「ひみつ道具」で解決しようとする物語だ。この中でしずかは、知的で上品な少女として描かれるが、焼き芋好きという庶民的な一面も持つ。「しずちゃんの心の秘密」(『ドラえもん』第28巻)では、ターゲットの情報を映し出すひみつ道具で、主人公の野比のび太とドラえもんに分の好物を知られる。しずかは、誕生日に焼き芋をプレゼントされ機嫌を損ねる。

アニメオリジナルエピソード「ヤキイモの気持ち」(2013年放送)では、ひみつ道具「たましいステッキ」によって、心を持ち喋るようになった焼き芋としずかの交流が描かれ、焼き芋と話すことで自らの本心をしずか自身が見つめる展開となる。これらの描写は、自己受容の可能性、そして時代と共に変化する食への価値観を表現しているのではと考える。(表A参照)



(藤子・F・不二雄『ドラえもん』より)

表 A

| 作品名    | 時代     | 関連する<br>主なさつまいも料理            | 現実で普及した<br>主要品種 (あいうえお順)                                                                                                                                                               | さつまいもの動向                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|--------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 鬼滅の刃   | 大正     | さつまいもご飯、<br>さつまいも味噌汁、<br>焼き芋 | おいらん<br>花魁、源氏、七福、<br>紅赤、ベルベツト                                                                                                                                                          | 沖縄県で人工交配による品種改良事業が開始し、<br>公的機関による育種体制整備に着手 (1914年)。<br>米騒動等の食糧難を背景に、主食代替とし普及<br>(1918年)。品種は、ほくほく系が主流。焼き芋は、<br>江戸時代に普及した「かまと焼き」の継承。                                                                                                                               |
| サザエさん* | 1946年～ | 焼き芋、<br>さつまいもの天ぷら            | おきなわ<br>沖縄100号、源氏、高系14号、<br>護国芋 (高系4号)、七福、太白、<br>農林1号、農林2号、農林10号                                                                                                                       | 戦後の食糧難 (1945年～1948年) で、主要食糧と<br>して位置づけ。在来品種主流から育成品種への転<br>換期 (1945年～1950年)。さつまいもが統制品から<br>解除、キュアリング貯蔵庫の普及 (1950年)。焼き<br>芋は「かまと焼き」や「つぼ焼き」が主流の中、「石<br>焼き」が新たに普及。「石焼き芋」が最盛期だった<br>高度経済成長期 (1955年～1973年頃)、食生活<br>の安定と共にさつまいもは主要食糧から副食・嗜好<br>品へと位置づけが変化。品種は、ほくほく系が主流。 |
| ドラえもん* | 1970年～ | 焼き芋                          | 1970年～1980年代頃: 高系14号、コガ<br>ネセンガン、農林1号、農林2号、紅赤<br><br>2013年頃: あんのう<br>安納いも、クイックスイート、<br>高系14号 (五郎島金時・なると金時等<br>の派生系統含む)、コガネセンガン、シ<br>ルクスイート、パープルスイートロード、ひ<br>めあやか、ベニアズマ、ベにはるか、<br>べにまざり | ファストフードの進出や流通革命により焼き芋の消費<br>減少 (1970年頃)。さつまいもの新たな栽培 (マル<br>チ栽培法や中型トラクターによる機械化一貫作業体<br>系) の普及 (1974年)。平成後期は、スーパーや<br>コンビニでの焼き芋販売が拡大。「ねっとりしっとり系」<br>「甘い」「カラフル」等の嗜好変化に対応した品種<br>改良や健康志向の高まりを背景に、焼き芋ブーム再<br>燃の足掛かりとなる。日本のさつまいもが、国内だけ<br>でなく海外からの注目がスタート。             |

表A) 各作品の時代設定・作品に関連するさつまいも料理・現実に普及した主要品種の一例・動向を整理し作成した。これらを照合し作品を見つめることは、さつまいもが物語を通じて担う役割の多層性を考える一助となる。

\*『サザエさん』『ドラえもん』の時代背景及び設定は、長期にわたる漫画連載やアニメ放送のため、発表時期や媒体によって変化が見られる場合がある。ここでは、本稿に取り上げたエピソードの漫画やアニメ放送年に基づき検討した。

### 3.『サザエさん』昭和の家庭と記憶の食卓

長谷川町子の『サザエさん』は、三世代家族の暮らしを描く。原作漫画の7巻では、主人公のフグ田サザエが、さつまいもを並べた皿を手を持つ姿や、磯野カツオが「つぼ焼き屋」を訪れる場面が描かれている。(『サザエさん』7巻, 1995) また、フグ田マスオは、さつまいもの天ぷらを「なにイモのテンプラ!」とムツとし、磯野波平は「わしはくわんぞ!!」と言っている。しかし食卓に出されたさつまいもの天ぷらが、磯野ワカメが掘った芋だと知った時、「すごくうまい!!ね」と頬張る。(『サザエさん』27巻, 1995) この場面では、世代間の時代背景に基づく食の記憶の違いが見受けられる。そして、新たなさつまいもの食体験により、さつまいもに対する記憶変容が起こり得るということを示唆している。(表A参照)

### 4.『鬼滅の刃』キャラクターと今が繋がる味覚

吾峠呼世晴の『鬼滅の刃』は、大正時代の日本を舞台に、家族愛や自己犠牲、成長

を内容軸に、日本の伝統文化や倫理観を重層的に描く。『鬼滅の刃公式ファンブック 鬼殺隊見聞録』の中では、「さつまいもご飯」が、登場キャラクターである煉獄杏寿郎(以下：煉獄)の好物として挙げられている。大正期の日本では、さつまいもは主食代替として重宝され、煉獄の好物設定は当時の食文化を反映しているのではと考える。(表A参照)

キャラクターの好物は、再現されることがある。まず、読者や視聴者の間で行われるのは、料理の実践である。『鬼滅の刃』の「さつまいもご飯」をイメージし、筆者はさつまいもライスを作ってみた。このライスは、米と様々な具材を使うことで、栄養価が高く、かつバランスがとれる。次に、作品と現実のリンクがグッズ化された事例をここに挙げる。「鬼滅の刃 ぶるぶるずぬいぐるみマスコット4 煉獄杏寿郎&さつま芋おにぎり」(2022年発売)だ。ここでは、さつまいもはキャラクターと一緒にグッズ化され、人々に記憶されるという文化的アイコンになっている。

#### いもりん<sup>むげん</sup>「∞さつまいもライス」



材料：さつまいも・米・野菜・肉（または魚）・出汁・酒・醤油・塩

---

ポイント：他の素材との「味」の調和を考え、さつまいも（品種）を選ぶ。また家族構成を配慮し、切り方・食感・栄養バランスを工夫する。米は、他の材料を組み合わせることで分量調整が可能。

Webサイト：<https://www.imorin-web.com/>

## おわりに：キャラクターが伝える「味わイモな体験」の可能性

私たちが漫画・アニメを通じて、受け取るものは何だろう。作品がキャラクターを介して描く時代背景や倫理観、価値観は、私たちの現実の行動や意識にも影響を与える可能性がある。漫画やアニメは、日本のさつまいも文化継承においてもその一端を担っていると考える。現代においては、食品価格の高騰や生活様式の多様化を背景に、さつまいもの経済性、栄養価、保存性といった機能が、改めて注目を集める一方で、農業従事者の高齢化による生産量や供給量の減少で地域ごとの流通格差といった課題が顕在化している。このような中で、キャラクターを通じてさつまいもへの関心が高まることは、消費者の購買行動に影響を与えるだけでなく、産地の取り組みや農業に目を向ける機会になり得る。また、経済や家族の状況を考慮し、暮らしの中にさつまいもを取り入れることは、社会課題への一対応となる。

次世代に継承し育てゆく「さつまいも文化」の種は、私たちの何気ない暮らしの中にそっとあるのかもしれない。本稿で考察した「キャラクターによるさつまいも文化継承のもつ可能性」が、味わイモな体験への扉となり、新たな世代、そして世界へと日本のさつまいもの魅力を広げていく一助となれば幸いである。

## 引用・参考文献

- 石毛直道・鄭大聲、『食文化入門』, 講談社, 1995 年.  
石原孝司,『農林水産省におけるかんしょ輸出拡大に向けた取組』, いも類振興情報, 2022, 151, p.28-p.35, <https://imoshin.or.jp/imoshin-viewer/pdf/151028.pdf>, (2025-05-12).  
狩谷昭男,『サツマイモの近代現代史—甘藷問屋 川小商店 136 年の軌跡—』, 財団法人いも類振興会, 2012 年.  
吾峠呼世晴,『鬼滅の刃公式ファンブック 鬼殺隊 見聞録』, 集英社, 2019 年.  
長谷川町子,『サザエさん (7)』, 朝日新聞出版, 1995 年, p.88.  
長谷川町子,『サザエさん (7)』, 朝日新聞出版, 1995 年, p.142.  
長谷川町子,『サザエさん (27)』, 朝日新聞, 1995 年, p.36.  
藤子・F・不二雄,『ドラえもん (28) (てんとう虫コミックス)』, 小学館, 1983 年, p.62-p.71.  
焼き芋文化チーム編,『焼き芋小百科』, 川越いも友の会, 2005 年.